



理工学科都市基盤工学コースの 4 年生が 2025 年度地盤工学会九州支部優良学生賞を受賞

【概要】

理工学科都市基盤工学コース 4 年生の江崎 萌佳さんと古賀 友人さんが、2026 年 4 月 28 日（火）に開催された地盤工学会九州支部総会において、2025 年度地盤工学会九州支部優良学生賞を受賞しました。

【本文】

理工学科都市基盤工学コース 4 年生の江崎 萌佳さん（現・佐賀県庁）と古賀 友人さん（現・理工学専攻博士前期課程都市基盤工学コース 1 年生）（主指導教員：日野 剛徳 教授）が、2026 年 4 月 28 日に開催された地盤工学会九州支部総会において、2025 年度地盤工学会九州支部優良学生賞を授与されました。

同賞は、地盤工学会九州支部管内に拠点を置く大学院・大学・工業高等専門学校に在籍する地盤工学を主専攻とする学生の中から、研究活動において優秀と認められる学生を表彰するものです。この賞は、学生の積極的な学修ならびに研究・技術開発などを奨励するとともに、若い世代の地盤工学会に対する理解を深め、会員の増加や支部活動の活性化を図ることを目的として設立されました。対象となるのは、学生が主体的に実施した地盤工学における学修ならびに研究・技術開発などの業績です。

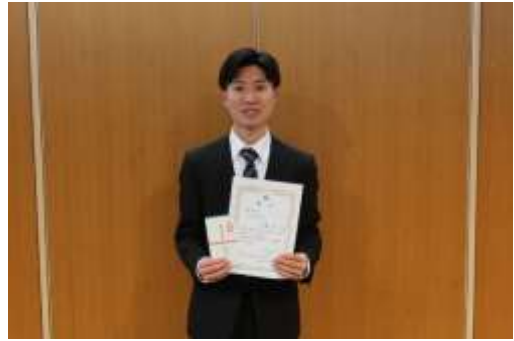
江崎さんは、卒業研究で取り組んだテーマ「異なる石粉の性状が改良土の配合仕様に及ぼす影響に関する研究」の成果が高く評価されました。碎石場で発生する石粉の一部は副産物として利用されるものの、大半は敷地内で野積みや埋立処分されているため、保管状況や採取箇所の違いによって性状が異なることが予想されます。その結果、石粉を利活用する深層混合処理工法（DMM）では、柱状改良体の品質管理が複雑化することが懸念されます。本研究では、粒径幅の小さい石粉ほど DMM の補助材として適しており、セメント添加量の低減に寄与すると考えられることなどを明らかにし、DMM における石粉の補助材としての利活用の実現に向けて大きく前進させました。

古賀さんは、「諫早低平地における軟弱粘性土の堆積環境と地盤工学的性質に関する研究」の成果について高く評価されました。諫早低平地には、表層から軟弱粘性土が厚く堆積しています。同低平地では、潮受け堤防の建設による急速な淡水化をはじめ、新たな商工業地域の造成など、さまざまな建設行為に伴う大きな環境変化が生じています。しかし、これらの人為的な行為が重なり続ける地史にありながら、その堆積環境や地盤工学的性質に関する知見は十分ではありませんでした。本研究では、有明粘土の液性指数および圧縮指数がともに高い値を示し、高鋭敏性・高圧縮性を有すること、さらに二次的な地盤環境変化の影響を受けていることなどを明らかにしました。

受賞の対象となった上記の研究テーマは今後も継続・発展され、第一線の現場技術者が直面する喫緊の課題の解決に資することを目指して、研究を進めていく予定です。



理工学科都市基盤工学コース
4年生 江崎 萌佳さん



理工学科都市基盤工学コース 4年生
古賀 友人さん



表彰会場における古賀 友人さんの
受賞の様子